

自立活動指導における課題設定・目標設定シート(アセスメントシート)

本校では、自立活動における生徒の年間目標・短期目標を設定する際に、課題設定・目標設定シートといったアセスメントシートを使用しています。このシートは、[個別の教育支援計画の情報・SM 検査の記録・自立活動のチェックリストの情報・キャリア教育の情報](#)などが記されます。このシートを入力していき、[一人ひとりの課題を整理し実態把握](#)に見える化することができる**教員のための資料**として活用しています。

次ページより、本校では、どのような流れでこのシートを入力しているか説明を掲載させていただいております。

「児童生徒の課題を一度整理してみたい。」「他の教員と児童生徒を客観的に把握できる資料がほしい。」「自立活動における実態把握のためのチェックリストだけでもやってみたい。」「このシートについて詳しく知りたい。」など、興味を持たれた先生方は、是非本校の研究支援部までお問合せください。

見本(ひながた) それぞれの情報が A4一枚にまとめられる

[illegible]

シートを活用した年間目標や短期目標の設定についての流れ

①

自立活動指導における課題整理・目標設定シート【高等部1年生】

		取得	クリア	名前		
個別の教育支援計画の情報	本人・保護者の希望	飽きっぱさ、～イヤ！となったらフリーズすることもあるので、根気よく作業を続けたり、ひとつのメニュー(例えば外でラーメン)を残さず投げ出さず食べるなど、ひとつずつクリアしていけるようになる。		良さ・伸ばしたい点	体を動かしたい方なので楽しくメリハリをつけて過ごしてほしい。	
	支援の目標	・取り組むことができる活動の幅を増やす。		その他の情報	アセスメント名	結果
	支援の内容	自立活動の時間を中心に様々な課題を提示して、取り組みやすい課題を探す。見通しを持つと落ちついて課題に取り組むことができることが多いので、活動の時間を決めたり、活動量や作業量を事前に示し、見通しを持って活動できるように支援する。			SM社会生活能力検査	【社会生活年齢: 3-4】 身辺自立: 5-1 移動: 2-7 作業: 5-2 コミュニケーション: 2-4 集団参加: 2-0 自己統制: 2-6

まずは最初に【個別の教育支援計画の情報】では、本人・保護者の希望・(長期的な視点からみた教育的ニーズと支援の内容)支援の目標と支援の内容を入力します。

【その他の情報】では、良さ・伸ばしたい点・S-M 社会能力検査の検査結果(本校では、S-M 社会能力検査を入学当初に保護者に記入いただき、活用しています。)の入力を行います。

4 健康の保持			
(1) 生活リズムや生活習慣の形成			
生活リズムの安定	清潔の清潔の保持		
(2) 病気の状態の理解と生活管理			
(3) 身体各部の状態の理解と管理			
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整			
(5) 健康状態の維持・改善			

12 心理的な安定			
(1) 情緒の安定			
気持ちの安定	リラックス	自己肯定感の向上	情緒不安の軽減
(2) 状況の理解と変化への対応	変化に対する反応	無関係感・活動	
(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	集中できる活動・課題づくり	できる活動の拡大	

1 身体の動き			
(1) 姿勢と運動・動作の基本的技術			
	適切な緊張状態の維持		
(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用			
(3) 日常生活に必要な基本動作			
(4) 身体移動能力			
(5) 作業に必要な動作と円滑な進行			

3 環境の把握			
(1) 保有する感覚の活用			
		上方の与え方の工夫	
(2) 感覚や認知の特性の理解と対応			
(3) 感覚の補助及び代行手段の活用			
	感覚手段を活用した支援等		
(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動			
注意の形成			
(5) 認知や行動の手段がりとる概念の形成			

1 人間関係の形成			
(1) 他者との関わり方の基礎			
(2) 他者の意図や感情の理解			
(3) 自己の理解と行動の調整			
(4) 集団への参加の基礎			
仲間と関わることの楽しさ			

3 コミュニケーション			
(1) コミュニケーションの基礎的能力			
		言語概念の形成	
(2) 言語の受容と発出			
	様々な手段を活用した支援		
(3) 言語の形成と活用			
(4) コミュニケーション手段の選択と活用			
	意思伝達手段の選択・活用		
(5) 状況に応じたコミュニケーション			

A 意思決定能力		E 情報活用能力	
① 【目標設定】目標への意識、意欲		① 【様々な情報への関心】仕事、趣味、人など多岐にわたる関心や意欲の形成	
② 【自己理解】自己の長所・短所、得意・不得意の把握		② 【情報収集と活用】必要に応じて情報を収集し、活用する能力の形成	
③ 【知見の活用】自分の長所・短所、得意・不得意の把握		③ 【社会生活の場面・場面】社会的場面での適切な行動の形成	
④		④ 【法や制度の活用】交通マナーの形成	
⑤		⑤ 【家族の関与】家族と関わりながら生活する能力の形成	
⑥		⑥ 【消費生活の理解】買い物、物の活用	
⑦		⑦ 【働く喜び】自分が果たす役割の理解と実行	
⑧		⑧ 【役割の理解と働くことの意義】自分の役割と働くことの意義	

D 将来設計能力	
① 【習慣の形成】学校生活での習慣の形成	
② 【習慣の形成】社会生活での必要習慣の形成	
③ 【夢や希望】職業的な役割や夢の形成	
④ 【夢や希望】職業的な役割や夢の形成	
⑤ 【夢や希望】職業的な役割や夢の形成	
⑥	
⑦	
⑧	

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	

C 人間関係形成能力	
① 【人との関わり方】自分の長所・短所の把握	
② 【人との関わり方】自分の長所・短所の把握	
③ 【人との関わり方】自分の長所・短所の把握	
④ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑤ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑥ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑦ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑧ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑨ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑩ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑪ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑫ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑬ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑭ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑮ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑯ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑰ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑱ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑲ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
⑳ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉑ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉒ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉓ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉔ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉕ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉖ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉗ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉘ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉙ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉚ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉛ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉜ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉝ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉞ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㉟ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊱ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊲ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊳ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊴ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊵ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊶ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊷ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊸ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊹ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊺ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊻ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊼ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊽ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊾ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	
㊿ 【自己理解】自分の長所・短所の把握	

【自立活動チェックリストの情報】では、自立活動チェックリスト(参考※1)を活用していきます。

各区分においてチェックリストを基に指導・配慮が必要な項目についてチェックします。

このシートの上部の「取得」をクリックすることで、チェックがついた項目に色がつき、このシートに表示されます。

赤色は1項目につき2ポイント、緑色は1項目について1ポイントとして、自動で表の左上に表示されるので、課題がある部分が見てすぐに分かります。

【キャリア教育の情報】も同様、本校独自のキャリアプランニングマトリクス「キャリア教育におけるつきたい力」(別シート)にチェックを入れ、「取得」をクリックすると、このシートに色がついて表示されます。

【キャリア教育の情報】も同様、本校独自のキャリアプランニングマトリクス「キャリア教育におけるつきたい力」(別シート)にチェックを入れ、「取得」をクリックすると、このシートに色がついて表示されます。

③

情報・課題整理	中心的に取り組む区分◎/関連付けて取り組む区分○	態度の保持	心理的な安定	人間関係の形成	態度の振	身体の働き	コミュニケーション	備考
	◎	◎			○		○	
◎や○印を付けた区分で目標設定に必要な項目・観点 〔各区分で必要な項目・観点を3つに絞る〕	生活リズムの安定 清潔な清潔の保持	リラックス 積極的な活動の参加	積極的な活動の参加	積極的な活動の参加	積極的な活動の参加	積極的な活動の参加	積極的な活動の参加	
キャリア教育で重点的に取り組む項目(A-①等)	D-① 家庭、学校生活に必要な習慣づくり C-② 日常生活に必要な意思の表現							

課題設定理由	理由	
	心理的な安定を図ることが難しく、活動を継続して取り組むことが困難である。少しでも心理的な安定が保てるように、視覚的にスケジュールを提示して、活動や休憩等の見通しを持って取り組むことが課題である。本人は、絵カードや写真を見て、その名前を言葉で表現したり、絵カードを使った意思表現をすることができる。このことから絵や写真を使用したスケジュールカードを活用が効果的で、活動内容や休憩箇所を示すことで見通しを持ち活動の幅を広げることができれば良いと考えて設定した。	

目標・学習内容設定	長期目標	短期目標	支援の内容
	・授業や行事の活動の流れを確認し、落ち着いて活動に参加することができる。	・1時間ごとの活動の流れをスケジュールカードで確認して、見通しを持って参加する。	・写真や絵を使用したスケジュールカードを作成し、ホワイトボードへ貼り付けることで流れを確認しながら活動できるように支援する。

【情報・課題整理】では、各区分のポイント計から、本年度中心的に取り組む区分：◎ 本年度関連付けて取り組む区分：○ を考え、**目標設定に必要な項目を選択**します。また、**キャリア教育で重点的に取り組む項目**を1つないし2つ入力します。

【課題設定理由】では、生徒の課題や実態をふまえ、望ましい姿などを明記し、**なぜこのような目標になるのかという理由**を、その生徒のことをあまり知らない教員が読んでも分かるように入力します。

【目標・学習内容設定】では、これまでのアセスメントをもとに長期目標(1年間)短期目標(半年)を設定します。また、**短期目標(半年)からどのような支援の内容を設定するか**記入します。

以上のような流れで入力していきます。

自立活動における実態把握のためのチェックリスト

◆指導区分・観点のチェックリスト			
以下の6区分について、対象の児童生徒に指導及び配慮が必要であると思われる項目・観点到○をつけてください。特に必要なものについては、◎をつけてください。	高等部		
	1年	2年	3年
	記入年月日		
記入者			
1 健康の保持			
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること			
生活リズムの安定（睡眠、排泄・排便、体温調節等）			
衣服の調節（場に応じた使い分け、身だしなみ、季節や気温の変化への対応）			
清潔の保持（洗濯・入浴・洗面・整髪）			
健康な食習慣の形成（偏食への対応、適切な量の摂取、食事時間等）			
整理・整頓の習慣づけ			
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること			
病気の状態の理解（治療方法や服薬の意味）			
生活管理・自己規制（睡眠時間、服薬・検温、食事量、過労やストレス回避等）			
心身状態の気づき・訴え（てんかん発作、発熱、嘔吐、下痢、便秘）			
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること			
視覚機能の維持（学習中の姿勢、危険な場面での対処）			
聴覚機能の維持・管理（補聴器を用いる際の留意点の理解）			
補装具の管理（装着方法、管理方法、不調のときの訴え）			
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること			
自己の障害特性についての理解（動作不自由・吃音・感覚過敏・視野障害・対人関係など）			
生活環境の調整（生活する上での必要な支援の要請等）			
(5) 健康状態の維持・改善に関すること			
運動量の確保（肥満防止、体力維持、食欲増進）			
健康なからだづくり（運動量確保、食生活の改善、心肺機能の向上等）			
医療的ケア（吸入、吸引、発作時の服薬等）			
健康状態の把握（健康観察、食生活と健康についての理解、月経周期の把握・自己管理等）			

2 心理的な安定			
(1) 情緒の安定に関すること			
気持ちの表出（嬉しいこと 嫌なこと 不安なことを伝える）			
リクセーション（興奮を静めるための場所の活用、手段の獲得）			
自己肯定感の向上（成功体験の積み重ね）			
情緒安定のための環境改善（生活環境、生活リズム、交友関係等）			
(2) 状況の理解と変化への対応に関すること			
状況の的確な理解（場所や場面の情報を得る）			
変化する状況の理解→変化に対応した適切な行動			
援助の依頼（必要な情報を得る、不安な気持ちを訴える）			
集団構成や活動内容の工夫（安心して活動に参加するための配慮等）			
(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること			
障害の状態の理解（得意・不得意、できる・できない等を知る）			
熱中できる活動や学習課題づくり（意欲の向上の観点から）			
できる活動の拡大（自分でできることを増やす、援助を受けてできることを作る）			
先輩や仲間との話し合い（ピアカウンセリング）			
3 人間関係の形成			
(1) 他者との関わりの基礎に関すること			
身近な人との信頼関係づくり（かかわる人への気づきから）			
他者とのやりとり（働きかけを受け止める、自分から働きかける）			
(2) 他者の意図や感情の理解に関すること			
相手の声の抑揚や調子の変化の聞き分け→適切な行動			
相手の言葉や表情の読み取り→適切な行動			
出来事の流れの把握（状況を総合的に理解し、場に応じて行動する）			
(3) 自己の理解と行動の調整に関すること			
自分の能力の把握 （できること／補助手段を活用してできること／援助があればできること）			
自分の行動特徴の理解→具体的な場面での対応			
(4) 集団への参加の基礎に関すること			
集団の雰囲気にならせた行動			
集団に参加するための手順やきまりの理解			
遊びや集団活動への積極的な参加			
日常生活でのルールや常識の理解 （友達同士でのことば使い、ヘルプの出し方等）			

4 環境の把握			
(1) 保有する感覚の活用に関すること			
視力の活用(主・追視、模倣、明暗、狭いー広い、深いー浅いなど)			
聴力の活用(音・声への対応、音源定位、音量など)			
その他の感覚の活用(触覚・平衡感覚など)			
情報の与え方の工夫 (視覚や聴覚の活用を促す＝実物をみせる、決まった言葉かけをするなど)			
(2) 感覚や認知の特性の理解と対応に関すること			
眼鏡の装用の習慣化(眼の病気など)			
快・不快刺激の把握(音、光、臭い、感触、衣服の材質など)			
得意な認知能力の把握(視覚優位 or 聴覚優位、同時処理 or 継次処理)			
(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること			
視覚補助具の活用(眼鏡、拡大読書器、各種の弱視レンズなど)			
視覚手段を活用した言語受容 (マカトン法、絵カード・写真、読話、手話、指文字、キュード・スピーチなど)			
視覚・聴覚機器を活用した情報収集 (音声情報を文字表示する機器、VOCA、iPadなど)			
(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること			
注意の形成(集中・持続)			
自分の位置と周囲の状況の把握(各種機器等、補助手段の活用も含めて)			
「知覚ー運動」感覚の活用(目と手の協応、目と足の協応など)			
様々な感覚を通して得られる情報の活用 (白杖や足下からの情報、音、においなど)			
(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること			
変化する様子を感じ取る力の形成(ものの機能や属性、形、色、音)			
マッチング・比較・弁別能力の形成			
時間に関する概念形成			
空間に関する概念の形成 (自分の位置と対象の位置関係を意識…上下・左右・前後・高低・遠近等)			
5 身体の動き			
(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること			
正しい姿勢の保持(→チェックポイントを活用した姿勢保持確認)			
上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得			
適切な緊張状態の維持(リラクゼーション、姿勢づくり)			
関節の拘縮や変形の予防			
筋力の維持・強化			
(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること			
補助用具の利用 (椅子、机、車いす／スプーン、鉛筆、食器、衣服／コンピューターの入力補助具等)			
補助用具のセッティング・収納・調整			

(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること			
身辺処理をスムーズに行うための基本動作			
学習のための基本動作（書字・描画等をスムーズに行うための基礎となる動作）			
介助を受けやすい姿勢や手足の動かし方の習得			
動作への注目・集中力の向上			
(4) 身体の移動能力に関すること			
移動能力の向上（身体移動や歩行、歩行器や車いすの移動）			
安全な移動手段の獲得（基本的な歩行技術、援助を依頼する方法の習得）			
校内外での安全な移動（交通ルールを守る、交通機関の利用等）			
(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること			
作業に必要な基本動作の習得（姿勢保持、上肢の基本動作の習得）			
緻密性、巧緻性、持続力の向上（作業を円滑に遂行する能力を高める）			
協応動作の習得（両手の協応、目と手の協応、手足の動きの協調等）			
姿勢や運動の自己調整			

6 コミュニケーション			
(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること			
意思のやりとり（表情や身振りをを用いて）			
他者への注目（注視する態度や構え、ことばや動きに対する関心）			
意思伝達の手手段の獲得（話し言葉、発声、身振り、手話、指さし等）			
言語概念の形成（言葉の理解、認知の発達等）			
コミュニケーション意欲の向上（要求の表現が積極的にできる等）			
(2) 言語の受容と表出に関すること			
様々な手段を活用した言葉の受容 （相手の意思・意図を受け止めることができる等）			
様々な手段を活用した言葉の表出（自分の意思を表出できる等）			
発語機能の改善（話しことばの不明瞭等）			
発語機能を補うための補助的手段の活用（文字・身振り等）			
(3) 言語の形成と活用に関すること			
自発的な発声・発語の促進（かけ声、擬音語・擬態語の活用）			
読解力や聞く力の向上			
語彙や文法体系の習得			
抽象的な言葉の理解（言葉の意味理解を深める）			

(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること			
文字言語や絵・シンボルを使ったコミュニケーション (筆談、文字盤、VOCA、コンピューター等)			
身振りをを使ったコミュニケーション(マカトン、手話、自然な身振り 指さし等)			
意思伝達手段の選択・活用 (ことばに身振りを付ける、話し言葉を補うために機器を活用する等)			
(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること			
適切な言葉の使い方 (相手によって使い分ける/相手の立場や気持ちに応じた言葉を選ぶ等)			
場に応じた話題の選択			
声の大きさや話し方の調整(距離によって・広さによって使い分ける等)			
状況に応じたコミュニケーションの展開			